

平成27年10月9日

各 位

関東鉄源協同組合

## 活路開拓調査・実現化事業推進

現在日本の鉄スクラップは年間約800万トンが輸出されているが、最大の輸出先である韓国は将来自給化が予想されており、又中国では既に自給化が達成されつつあり、最近増加している台湾・ベトナム等は市場規模が小さく、安価中国産ビレット流入の影響もあり、両国への鉄スクラップの輸出は不安定さがぬぐえない。

こうした状況を踏まえ、当組合では全国中小企業団体中央会の補助を得て、活路開拓調査・実現化事業を開始し、新たな販路開拓と需要創出に向けたビジョンを作成することになった。

本事業推進の為、既に調査・研究及びビジョン作成委員会を設置し、委員長に就任した 醍醐市朗 東京大学准教授の下、事業目的達成に向けて以下の調査・研究を行う。

- 1：国内外の鉄スクラップ需給に関する現状把握
- 2：輸出競争力確保の為の基礎調査
- 3：新規市場に付いて、現地調査を含む調査・研究

以上